

● 9月選評

小島なお

・ 茉城そう (北海道)

薄曇り

ひらいてとじてを繰り返す

遊びであって朝は窓際

ひらいてとじてを朝ごとに繰り返すのは窓でもてのひらでも瞼でも蕾でもいい。
遊びのように生きるひとときを閃きながら内と外の世界を歩き来したい。

・ 駒鳥朋名 (埼玉県)

もらいすぎた朝日せつない

生徒会長といると着く桜台駅

西武池袋線桜台駅。生徒会長という存在の引力が私をまるで導くような朝の登校風景。切なくなるほどの朝日を受け取りながら私には返す術がない。

・ 永山 逢海 (神奈川県)

ぼる

ぼる

と迷いが房を成してゆく

葡萄の真ん中で目を瞑る

濁音に膨らんでゆく迷いの一粒。やがて二粒、三粒とずっしり重たい迷いの房が葡萄を成してゆく。目を瞑ることで私は消え、葡萄のみずみずしい闇になる。

・ 大嶋 碧月 (兵庫県)

俺は光よりも速く産道を泳いで

サリンの朝から逃げてきたんだ

産道の向こうは1995年の地下鉄サリン事件の朝に繋がっていると。あの日死んでいたはずの俺は、地下鉄を利用していた何万人の私でもあった。

・汐見りら（東京都）

あの夏のカメラロールはやけに青
本気の自由形はきたない

海や空ばかりのカメラロールは、ひと夏限りの遙かさを伝えている。本気の自由形は競技のような美しさを超えた規格外、満身創痍のフリースタイルである。

・橋口 諒介（東京都）

今までの全部を壊しに出かけよう
辞書よりも僕の方が重たい

言葉の全部を網羅し、更新する辞書。よりも僕の方が、感情の、欲望の、エネルギーの、志の全部を網羅し有している。僕の重たさで全部をぶん殴るべく。

・水谷 雄樹（愛知県）

死んだ奴 生きている奴
その上の 時計の音が
聞こえてこない

死んだ奴はもう時間の上に生きていない。生きている奴の時間は伸び縮みする歪んだ時空にある。どちらでもない奴になった時にきつと聞こえる音がある。

・花咲蟹 せん（福島県）

かまきりも私も

お腹がはち切れそう

愉快的サイレン

秋のこない 夜更かし

お腹の中身は卵か寄生虫かそれとも。今にも救急車がやってきそうなお腹がはち切れれば秋が来る。はち切れる前の不自由な身体を楽しんでみるのも。

・平 春来里（岐阜県）

あの世も

あんなことも

そら豆のあんこも

「あ」の音があかるく、「あんこ＝あんなこと」と語呂合わせのようにひびく。そら豆のみどり色のあんこで、どの世のどんなことも甘く包みたい。

・付玉 薄荷（埼玉県）

海辺の貝

テーブル席には座れず

貝の自力では座れずなのか、マナー的に貝は座れずなのか。カウンター席なら座れるのか。まぼろしの手がそっと海辺のテーブル席に貝を置いてゆく。